

第四回定例会一般質問(代表) 人口減少に対応した持続可能なまちづくりを



櫻井啓一議員

今後の人口減少は確実。市内の不均衡も顕著に表れている。市はどのような課題認識を持っているのか、また、定住化促進策は。

佐藤市長 人口減少、人口構造の変化は、コミュニティの活力低下に繋がるとともに生産力の低下や社会保障費の増大などが懸念される。人口減少や人口構造の変化に対応できる持続可能なまちづくりを着実に進めていく。

本年2月の記録的な大雪により、倒木等の森林被害が見受けられる。被害状況と今後の対策は。また、国においては山の日が制定されましたが、森林資源の観光活用とクラウドファンディングを活用した取組は。

岡本経済部長 民有林整備事業での支援や国や県の補助などを活用しながら被害対策に取り組んでいく。森林の観光活用については、より一層、魅力の向上を図っていく。クラウドファンディングについて

では今後、検討していく。その他の質問項目 市長の政治姿勢について 北関東中核都市の連携したまちづくり 東西基幹公共交通LRTの営業主体の確保 JR宇都宮駅東口地区整備事業 都市計画制度 行政改革について 非常勤嘱託員の任用のあり方について 「もったいない運動」の推進について 都市魅力の創造について 地上デジタル放送の難視対策について

第四回定例会一般質問(抜粋) 地域で支え合う認知症対策の充実を



増淵一基議員

認知症対策は、地域での身近な支え合いが重要。本市の考え方や具体的な取組は。

佐藤市長 認知症の方や家族が安心して、安全に暮らしていくためには、「周囲の方の協力」、「地域での見守り」が重要。今後も認知症対策のより一層の充実に向け取り組んでいく。

ねんりんピック栃木2014開催にあたり、ホテル・旅館の防火安全体制の確保を

図ることが重要。その現状と今後の取組は。

小池消防長 本年4月に「防火対象物に係る表示制度」(適マーク)の運用を開始したところであり、利用者などの安全・安心をさらに確保するため、適マーク普及の促進とともに、火災予防対策を積極的に推進していく。

その他の質問項目 市長の政治姿勢について 中心市街地活性化 自転車のまち宇都宮の推進

平成25年度包括外部監査 ラグビーワールドカップ キャンプ地誘致 空き家等条例について 大雪による農業被害対策について 保健福祉行政について ・ねんりんピック栃木2014 ひとり親家庭への支援について 八幡山公園への指定管理者制度導入について 図書館による地域の課題解決支援について

西房美議員への懲罰を議決

宇都宮市議会は、本会議を無断で欠席した西房美議員に対し、6月13日の本会議で、10日間の出席停止を科すことを決定しました。

西議員は今年3月定例会の閉会日における採決態度の誤りを認め謝罪したばかり。それにもかかわらず、今回、本会議を無断欠席し、西議員のみが反対を表明していた議案を含むすべての採決を放棄。これに対し、6会派の6名の議員から懲罰動議が議長に提出され、懲罰特別委員会を設置し審議した結果、懲罰を科すこととしました。

市民の声

市民の方から本紙をはじめとする当会の活動等に関する数多くのご意見・ご要望等が寄せられています。下記にその一部をご紹介します。

・私は30代のころから路面電車に関心があり、宇都宮市内に開通する夢を見てきました。宇都宮の発展に数えきれない効果があると思います。子どもたちのため、宇都宮市のためにも、メリットは大きいと思います。市議会自由民主党の皆さん頑張って一日も早い開通をお願いします。 70歳代男性

今後とも、多くのご意見・ご要望をお寄せください。

シリーズ LRT

第2回

第2回の今回は、「海外との比較で見た日本の現状」を取り上げてみます。

日本においても、海外の都市と同様に、環境問題、高齢化社会の到来など課題を抱えています。国では、普及を図るべく様々な方策に取り組んでいますが、各都市においては、海外のような取り組みができないのが現状です。

この遅れの理由は、前回のシリーズで記載したLRT整備のための基礎的なポイント(交通結節点の整備、交通の統合、まちづくりの視点、都市のインフラ)が日本においては、共有されていないということが言われています。

日本では、公共交通は独立採算制で成立すべき事業という認識が根強く、交通事業はまちづくりのツールであるという考え方にコンセンサスが得られていません。したがって、LRTの議論にたどり着く前に、バスネットワークそのものが苦戦を強いられ、交通システムの検討が進まなくなってしまうということになります。

さらには、自動車という私的な交通手段に頼ることに慣れた市民にとって、中心市街地の自動車の乗り入れの抑制といったことに、強い抵抗感があり、公共交通のための空間確保についても、なかなか理解が得られにくくなっているようです。

これらが、なかなかLRTが進まない原因とされてきています。

アメリカ西海岸オレゴン州にポートランド(人口は本市と同規模)という都市があ



ります。全米で最も住みたい都市の最上位にランクされていますが、その背景には自動車利用抑制とともに、LRTをはじめとする公共交通網が機能的に張り巡らされていることや緑豊かな街の美しさ(有名なアイルランドのレイキャビクに続く、世界第2位の環境に優しい都市)にあると言われてようです。

ポートランドのLRTについては、自動車中心のまちづくりへの反省から、1980年代前半に最初の路線が建設され(約24km、1986年に開業)、現在4路線(総延長約77km)が整備されています。

また、トランジットセンター(交通結節点)の整備やわかりやすい料金体系をとり入れることにより、バスの利用者も相乗的に増加しています。

なお、ポートランドのLRTやバスには自転車運搬用のスペースが用意されており、このため自転車の通勤者が8%(アメリカ主要都市の中で第1位)を占めるほど自転車利用が多く、自動車利用の抑制に効果をあげているとのことでもあります。

本市の30年後の将来が、ポートランドのようになるかはわかりませんが、都市間競争に勝ち抜き、本市が「日本で最も住みたい都市」になるためには、現在を生きる私たちの決断が何よりも大切ではないかと思っています。